

時間割コード	KZ3001	ナンバリング	KZ-ARS-331-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	5学部混合地域PBL I				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

ひたちなかまちづくり株式会社、ひたちなか商工会議所の協力を得て、勝田駅周辺をフィールドとして行うPBLである。受講生は「まちづくり」とは何かを考え、ひたちなか市の現状と多様性、駅前周辺の空間が抱える課題を認識する。現地視察や「まちづくり」に取り組む人々との交流から「まちづくり」の実践を学ぶ。振り返りやワークショップを重ねながら、学生の参画方法を検討し、地域の未来づくりの提案を行う。

キーワード/Keyword(s)

地域 PBL 学部横断 まちづくり 商店街 リノベーション プロモーション 景観 環境 情報発信

到達目標/Learning Objectives

- ①「まちづくり」とは何かを考え、直面している課題にどのような人々がどう向き合い、乗り越えようとしているのかを理解できる。
- ②講義、現地視察、ヒアリング、グループ・ワーク、振り返りなどにより、「まち」を多角的な視点から見つめ、課題解決について思考できる。
- ③自ら「まちづくり」に関わっていく意欲や方法を獲得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回:ガイダンス・チェックイン
PBL I の目的およびスケジュール説明
チェックイン（自己紹介、私にとっての魅力的なまち、ワークショップについて、この授業で学びたいこと、事前課題提出など）
（シンク・ペア・シェア）

第2回:講義「まちづくりについて聞く」
（1）ひたちなかまちづくり株式会社の目指すまちづくり
（講師とのディスカッション、ワークシート）
グループ・ディスカッション
（チームビルディング）

第3回:講義「まちづくりについて聞く」
（2）表町商店街の歴史
（3）「まちづくり」とは何か？
（講師とのディスカッション、ワークシート）

第4回:「まちづくりについて聞く・考える」「まちづくり」に関わる人たちとの交流
（ヒアリングシート、グループディスカッション）

第5回:ワークショップ「まちあるきの準備」
（ブレインストーミング、ワールドカフェ）

第6回:「まちを歩く・見る」

ガイダンス、文化会館～表町商店街～ひたちなか商工会議所周辺の見学
(フィールドワーク)

第7回:「まちを歩く・見る」

文化会館～表町商店街～ひたちなか商工会議所周辺の見学
ワークシートによるまとめ
(フィールドワーク、ワークシート)

第8回:ワークショップ「まちを歩いて気づいたこと」

(ブレインストーミング、親和図法、グループ・ディスカッション)

第9回:ワークショップ「まちづくりに参加する」ブレインストーミング、プレゼン基本フレームの作成

(ストラクチャー・プロブレム・ソルビング)

第10回:ワークショップ「まちづくりに参加する」プレゼン基本フレームの完成

(ストラクチャー・プロブレム・ソルビング)

第11回:グループワーク「ともにまちを創る」具体的なプランの作成

(ストラクチャー・プロブレム・ソルビング、クリエイティブ・セッション)

第12回:ワークショップ「ともにまちを創る」具体的なプランの完成、発表準備 (パワーポイントやサンプルの作成)

(ストラクチャー・プロブレム・ソルビング、クリエイティブ・セッション)

第13回:グループ発表 (前半)

(ディスカッション、ワークシート)

第14回:グループ発表 (後半)

(ディスカッション、ワークシート)

第15回:講評・全体のまとめ

(パネルディスカッション、振り返り)

【授業外学修】

説明会に提示される事前課題に取り組む。事前課題は授業 1 日目に提出する。

配布される資料を参考に授業前後の学修を行う。

関係する資料を図書館やインターネットなどで入手し、読んでおく。

授業ではグループ・ワークが多く行われるため、自分自身の意見を明確に述べられるよう準備をしておく。

3日間の授業終了後、レポートを提出する。

履修上の注意/Notes

【説明会】受講希望者は必ず出席すること。

6月下旬～7月上旬に開催する。履修登録は7月中に実施予定。

【授業】9月9日(水)～11日(金)(3日間)に実施する予定。

授業の内容や順番は変更になる場合がある。

実施場所はひたちなか商工会議所、および勝田駅前商店街を含む駅周辺となる。

現地集合、現地解散となる。

遅刻または早退3回で1回の欠席とみなす。30分以上の遅刻または早退は欠席とする。

実施場所(最寄駅は勝田駅)までの交通費と3日間の昼食費は個人負担となる。

受講人数は40名程度である。

授業関係連絡先: hiromi.watanabe.nabe.@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

事前学修資料は、教務情報ポータルシステムにアップする。

授業内においても、各種調査等に活用するのでPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 「まちづくり」とその取り組みに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、「まちづくり」に関わっていく意欲と手法を獲得している。

A : 「まちづくり」とその取り組みに関する基本的な知識と考え方を修得し、「まちづくり」に何らかの形で関わっていく意欲と手法を獲得している。

B : 「まちづくり」とその取り組みに関する基本的な知識と考え方を概ね修得している。

C : 「まちづくり」とその取り組みに関する基本的な知識と考え方について最低限修得している。

D : 「まちづくり」とその取り組みに関する基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

授業後に提出するレポート : 50%

授業中に記入するワークシート : 30%

説明会に出題される事前予習課題 : 10%

学習活動への関心・意欲・態度 : 10%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書 ; 特になし
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	学生まちづくらの奇跡 : 国立発!!一橋大生のコミュニティ・ビジネス
著者名	菱沼勇介, 田中えり子編 ; KF書籍化プロジェクト著
出版社	学文社
出版年	2012
ISBN	4762022446
教材費	1800

参考書2

書名	商店街再生計画 : 大学とのコラボでよみがえれ!
著者名	三浦展, 神奈川大学曾我部昌史研究室著
出版社	洋泉社
出版年	2008
ISBN	4862482716
教材費	1500

参考書3

書名	商店街は学びのキャンパス : 現場に学ぶまちづくり総合政策学への招待 : まちかど研究室「ほんまちラボ」からの発信
著者名	片寄俊秀 著
出版社	関西学院大学出版会
出版年	2002
ISBN	4907654405
教材費	2200

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

まちづくりについて実践的経験のある教員、公的な支援機関の職員、企業の社員が、その経験に基づき、今日的なまちづくりについて講義や授業支援を行う。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KZ3002	ナンバリング	KZ-ARS-331-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	5学部混合地域PBL II				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

株式会社サザコーヒーとひたちなか商工会議所の協力を得て、経営、マーケティング、社会貢献、人材育成の面から、地元企業の経営と地域貢献について学び、課題解決提案を通して経営に触れるPBLである。受講生は当該企業の経営の特徴と強み、魅力的なカフェ空間の創出、企業が求める人材について理解する。店舗や工場の見学、顧客へのヒアリング、社員とのディスカッション、ワークショップなどを通して、継続性、収益性を押さえながらプランの具体化を目指す。

キーワード/Keyword(s)

地域 PBL 学部横断 企業経営 地域貢献 カフェ コーヒー 商品・サービス開発

到達目標/Learning Objectives

- ①サザコーヒーの取り組みを通して、地元企業の役割や企業経営について理解できる。
- ②講義、現地視察、ヒアリング、グループ・ワーク、振り返りなどにより、目標やプランを設定し、具体的な活動に関わっていく意欲や方法を獲得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス・チェックイン
PBL IIの目的とスケジュール説明
チェックイン（自己紹介、この授業で学びたいこと）
講義「サザコーヒーの経営と地域貢献」
（グループ・ディスカッション）

第2回：フィールド・ワーク（1）「サザコーヒーってどんなお店？」
フィールド・ワークの準備
サザコーヒー店舗にて顧客やスタッフにヒアリング
（フィールドワーク、インタビュー）

第3回：フィールド・ワーク（1）「サザコーヒーってどんなお店？」
サザコーヒー店舗にて顧客やスタッフにヒアリング
（フィールドワーク、インタビュー・ワークシート）

第4回：フィールド・ワーク（2）「サザコーヒーのこだわり」
本社工場見学
（フィールドワーク）

第5回：フィールド・ワーク（2）「サザコーヒーのこだわり」
カップリング（コーヒー試飲）
（フィールドワーク、ワークシート）

- 第6回：ワークショップ「サザコーヒーの魅力と企業理念」
(ブレインストーミング、親和図法、ワークシート、グループディスカッション)
- 第7回：社員さんとのトークセッションーク
(講師とのディスカッション、ワークシート)
- 第8回：ワークショップ「アイデアを形に」課題に取り組む内容を具体的に把握
(ワークシート、ストラクチャード・プロブレム・ソルビング)
- 第9回：ワークショップ「アイデアを形に」課題に対する企画書提案書作成
(ワークシート、ストラクチャード・プロブレム・ソルビング)
- 第10回：ワークショップ「アイデアを形に」企画書提案書完成 サンプル作成
(ワークシート、ストラクチャード・プロブレム・ソルビング、クリエイティブセッション)
- 第11回：グループ・ワーク「アイデアを届ける」サンプル完成、プレゼンの準備
(ストラクチャード・プロブレム・ソルビング、クリエイティブセッション)
- 第12回：グループ・ワーク「アイデアを届ける」プレゼンの準備
(ストラクチャード・プロブレム・ソルビング、クリエイティブセッション)
- 第13回：グループ発表 (前半)
(ディスカッション、ワークシート)
- 第14回：グループ発表 (前半)
(ディスカッション、ワークシート)
- 第15回：講評・全体のまとめ
(パネル・ディスカッション、振り返り)

【授業外学修】

予習として、説明会に提示される事前課題に取り組む。事前課題は授業1日目に提出する。

関係する資料を図書館やインターネットなどで入手し、読んでおく。

配布される資料を参考に授業後復習と予習を行う。

授業ではグループ・ワークが多く行われるため、自分自身の意見を明確に述べられるよう準備しておく。

3日間の授業終了後、レポートを提出する。

履修上の注意/Notes

【説明会】受講希望者は必ず出席すること。

6月下旬～7月上旬に説明会を開催する。履修登録は7月中に行う予定。

【授業】9月16日(水)～9月18日(金)(3日間)に実施する予定である。

授業の内容や順番は変更になる場合がある。

実施場所はサザコーヒーひたちなか本店・工場、茨城大学水戸キャンパス、ひたちなか商工会議所である。

現地集合、現地解散となる。

遅刻または早退3回で1回の欠席とみなす。30分以上の遅刻または早退は欠席とする。

実施場所(最寄駅は勝田駅)までの交通費と3日間の昼食費は個人負担となる。

受講人数は30名程度。

授業関係連絡先：hiromi.watanabe.nabe.@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

事前学修資料は、教務情報ポータルシステムにアップする。

授業内においても、各種調査等に活用するのでPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：地元企業の役割や経営について基本的な知識と考え方を十分に修得し、経営に関わる具体的な企画提案の意欲と手法を十分に獲得している。

A：地元企業の役割や経営について基本的な知識と考え方を修得し、経営に関わる具体的な企画提案の意欲と手法を獲得している。

- B : 地元企業の役割や経営について基本的な知識と考え方を概ね修得している。
- C : 地元企業の役割や経営について基本的な知識と考え方について最低限修得している。
- D : 地元企業の役割や経営について基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

授業後に提出するレポート：50%

授業中に記入するワークシート：30%

説明会に出題される事前予習課題：10%

学習活動への関心・意欲・態度：10%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書；特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	20年続く人気カフェづくりの本：茨城・勝田の名店「サザコーヒー」に学ぶ
著者名	高井尚之 著
出版社	プレジデント社
出版年	2017
ISBN	9784833422505
教材費	1300

参考書2

書名	すべては一杯のコーヒーから
著者名	松田 公太 著
出版社	新潮社
出版年	
ISBN	9784101180311
教材費	500

参考書3

書名	月3万円ビジネス100の実例：ワイワイガヤガヤ楽しみながら仕事を創る
著者名	藤村靖之 著
出版社	晶文社
出版年	2015
ISBN	9784794968845
教材費	1500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	△

課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ3003	ナンバリング	KZ-ARS-331-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	5学部混合地域PBL Ⅲ				
担当教員（ローマ字表記）	西野 由希子, 井上 拓也				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

<p>内容から「地域課題入門」と呼ぶ。人文社会科学部の「人文社会科学部地域志向教育プログラム」への導入の意味を持つ科目であり、集中講義として開講する。</p> <p>授業は茨城県と常陸大宮市と協働で行い、課題の提示、現地での調査、調査結果の整理・分析、課題解決案の検討、課題解決案の発表、レポート提出という内容で進める。</p>
--

キーワード/Keyword(s)

地域課題、課題発見、課題解決、茨城県、自治体、常陸大宮市、地域活性化、地域連携、伝統文化、市民ネットワーク、RESAS（地域経済分析システム）

到達目標/Learning Objectives

<ul style="list-style-type: none"> ・「人文社会科学部地域志向教育プログラム」の科目を履修していくために、地域とはどのようなものか、そこでどのような課題が生じているか、特に自治体、市民・地域セクターについて理解できるようになる。 ・地域の現状の把握や分析のために、RESAS等のデータを活用できるようになる。 ・地域の課題を調査・研究する方法を学ぶことで、課題解決の提案をまとめたり、実践的な活動や研究に取り組んだりできるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>第1回 1日目：ガイダンス 4日間についての説明、自己紹介、地域を学ぶことについての発表 （シンク・ペア・シェア）</p> <p>第2回 1日目：茨城県からの課題提示</p> <p>第3回 1日目：茨城県からの課題に対する調査、調査結果の整理・分析、課題解決案の検討</p> <p>第4回 1日目：茨城県からの課題について課題解決案の発表、グループでのディスカッション、まとめ （第1回～第4回：ディスカッション、ミニツツペーパー）</p> <p>第5回 2日目：常陸大宮市での課題提示</p> <p>第6回 2日目：常陸大宮市での現地調査</p> <p>第7回 2日目：常陸大宮市での現地調査に基づくグループディスカッション （第5回～第7回：フィールドワーク、PBL、ディスカッション、ミニツツペーパー）</p> <p>第8回 3日目：常陸大宮市での現地調査とRESASのデータ調査</p> <p>第9回 3日目：常陸大宮市での調査結果の整理と分析</p> <p>第10回 3日目：常陸大宮市での調査結果の分析についてのグループディスカッション</p>

第11回 3日目：常陸大宮市での調査結果に基づく課題解決案の検討

(第8回～第11回：フィールドワーク、PBL、ディスカッション、ミニツツペーパー)

第12回 4日目：常陸大宮市での調査結果に基づく課題解決案についてのディスカッション

第13回 4日目：常陸大宮市での調査結果に基づく課題解決案のブラッシュアップと発表資料作成

第14回 4日目：常陸大宮市での調査結果に基づく課題解決案の発表会

第15回 4日目：全体ディスカッション、まとめ

(第12回～第15回：グループワーク、PBL、クリエイティブセッション、ミニツツペーパー)

【授業外学修】

- ・各日の授業について振り返りを行い、整理してまとめる
- ・説明会やガイダンス、実地調査の際に配布・紹介する資料や参考書等を読む
- ・茨城県、常陸大宮市等の自治体や地域について、RESAS等のデータベースにより基礎的なデータを収集する
- ・課題等に関連して見学や調査、参加等を行い、授業の内容に反映させる

履修上の注意/Notes

- ・調査や討論等に、主体的、積極的に参加して下さい。
- ・集中講義であり、学外・現地調査がありますので、遅刻・欠席をしないように。
- ・日程や内容は、茨城県や常陸大宮市との相談により、変更になる可能性があります。本講義について、履修登録前に説明会を開きますので、出席し、開講日や諸注意などよく説明を聞いて受講して下さい。なお、本講義は、人文社会科学部の学生の受講が優先されることがあります。
- ・オフィシアワー（西野：火曜昼休み：研究室人文棟A-310:事前にメールで連絡してください）

情報端末の活用

- ・RESAS等のデータベースについて学び、それを活用して調査等を行いながら授業を進めますのでPCを持参してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：地域活性化に関して基本的な知識と考え方を十分に修得し、地域の課題とその解決方法を検討・考察できている。
- A：地域活性化に関して基本的な知識と考え方を修得し、地域の課題とその解決方法を検討・考察できている。
- B：地域活性化に関して基本的な知識と考え方を概ね修得し、地域の課題とその解決方法を検討・考察できている。
- C：地域活性化に関して基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、地域の課題とその解決方法を検討・考察できている。
- D：地域活性化に関して基本的な知識と考え方が修得できておらず、地域の課題とその解決方法を検討・考察できていない。

成績の評価方法/Grading

調査内容等に基づく1日目・2日目・3日目のミニレポート、発表会での発表（評価に応じてグループごとに一定の点数を与える）、最終レポートによって評価する（最終レポートには、RESAS等のデータを活用すること）2：2：2：1：3とする。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書；特になし。プリント及び資料を配付します。
----	--------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	未来につなげる地方創生：23の小さな自治体の戦略づくりから学ぶ
著者名	内閣府地方創生人材支援制度派遣者編集チーム 編

出版社	日経BP社
出版年	2016
ISBN	4822235726
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	集中講義であり、日程・内容等の詳細が決まるのは、5月ごろの予定です。
--------	---	-------	------------------------------------

時間割コード	KZ3004	ナンバリング	KZ-ARS-332-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	5学部混合地域PBL IV				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子, 瀬尾 匡輝, 八若 壽美子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

ひたちなか国際交流協会の協力を得て、国際交流協会及び地域の国際交流ボランティア等からのヒアリングやディスカッション、活動見学を通して多文化化する地域の抱える問題を知り、外国人留学生と日本人学生が協働で地域の多文化共生のために何ができるかを考え、提言を行う。

キーワード/Keyword(s)

多文化共生、地域、協働、PBL

到達目標/Learning Objectives

- ・多文化社会化が進む地域の抱える問題が理解できる。
- ・地域社会の一員として多文化共生のため自分たちに何ができるかを考えることができる。
- ・文化背景の異なる他者と英語ややさしい日本語等を駆使してグループワーク、ディスカッション等の活動ができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス(PBLIVの目的とスケジュール説明)
アイスブレイキング（自己紹介等）、留学生が抱える問題、日本人学生の認識
（グループ・ディスカッション）
- 第2回 講義：多文化化が進む日本の状況
（グループ・ディスカッション）
- 第3回 ワークショップ：多文化理解(意識化アクティビティ)
- 第4回 話題提供：ひたちなか国際交流協会、日本語教室ルンレン
- 第5回 フィールドワーク・トークセッションの準備（1）身近な取り組みを調べる
- 第6回 フィールドワーク・トークセッションの準備（2）質問を考える
- 第7回 フィールドワーク 街歩き(街中に見る多文化化、サービス、不備等)
- 第8回 フィールドワーク ひたちなか国際交流協会（1）
（行政側、ボランティアとのトークセッション）
- 第9回 フィールド・ワーク ひたちなか国際交流協会（2）
（外国人住民(日本語学習者)とのトークセッション、日本語教室の活動見学)
- 第10回 フィールド・ワークの情報共有、振り返り
- 第11回 グループワーク：発表会準備（1）
- 第12回 グループワーク：発表会準備（2）
- 第13回 グループ発表+ディスカッション
- 第14回 グループ発表+ディスカッション

第15回 講評・全体のまとめ、振り返り

【アクティブラーニング】

全授業通して以下のアクティブラーニングを用いる。

・茨城県内の多文化共生の状況を理解し、地域のボランティア、外国人住民とともに問題解決に向けて提言を行う等、地域への社会貢献を行う【サービスマーケティング】

・各回の授業では、テーマについて考えたことをペアやグループで話し合う【シンク・ペア・シェア】【グループディスカッション】とともに、プロジェクトの現状報告及びふりかえりを行う【リフレクティブ・ジャーナル】。

・プロジェクト活動をふりかえり、学んだこと、工夫したこと、今後の課題をまとめ、発表、レポートという形で報告する【授業後レポート】。

【授業外学習】

・各授業後、授業内の活動の経過、得たこと、課題、自身のグループ活動貢献度等をウィークリーレポートとして報告すること。

・授業では、ペア、グループやクラス全体によるディスカッションが多く行われる。そのため、他の学生の声に耳を傾けるとともに、自分自身の意見を明確に述べられるようにしておく。

・グループ発表等グループで活動することが多いが、授業外でも集って話し合うなどグループ内の情報共有を密にすること。

履修上の注意/Notes

・本授業は集中講義ですので、変則的な日程で行います。詳細は5月初旬に行われる説明会で説明しますので、必ず出席してください。

以下は大まかな予定ですが、協力先等の都合で変更の可能性もありますので、その都度確認してください。

第1回～6回 5月中旬～ 水曜日4講時、5講時(2コマ連続)

第7回～9回 6月中旬 土曜日(3コマ連続)

第10回 6月下旬 水曜日5講時

第11～12回 7月上旬 水曜日5講時

第13回～15回 7月初旬 土曜日(3コマ連続)

- ・授業・グループワークへの積極的な参加を求めます。
- ・2/3以上の出席がない場合は不合格とします。
- ・遅刻または早退3回で1回の欠席とみなします。
- ・30分以上の遅刻または早退は欠席とします。
- ・16回目に期末試験を行いません。
- ・フィールドワーク、見学等にかかる交通費等は自己負担とします。

情報端末の活用

グループプロジェクトを行うため、授業時にはPCを持参してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：地域の多文化共生についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、それに基づき、文化背景の異なる他者と協働で、問題の解決策等の格な提言ができています。

A：地域の多文化共生についての基本的な知識と考え方を修得し、それに基づき、文化背景の異なる他者と協働で、問題の解決策等の提言ができています。

B：地域の多文化共生についての基本的な知識と考え方を概ね修得し、それに基づき、文化背景の異なる他者と協働で、問題の解決策等の提言が概ねできています。

C：地域の多文化共生についての基本的な知識と考え方を最低限の修得をしており、それに基づき、文化背景の異なる他者と協働で問題の解決策等の最低限の提言ができています。

D：地域の多文化共生についての基本的な知識と考え方が修得できておらず、問題の解決策等の提言ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポート: 30%
グループ発表: 40%
活動への態度・貢献度:10%
ウィークリーレポート: 20%
期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input checked="" type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日英併用

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ3005	ナンバリング	KZ-ARS-331-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	地域協創 P B L				
担当教員（ローマ字表記）	桐原 武文				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

一般社団法人日本自動車連盟（JAF）茨城支部の協力を得て、茨城県における地域振興を実践的に学んでいく。受講生は、他大学や様々な学部から参加する学生と共に自治体や企業等で実地体験を行い、現地視察や関係者との意見交換を通して、地域資源の強みと弱みを把握しながら新たな地域振興プランの提案を行う。これら一連の過程を通して、「地域志向で協創力ある学生」、「現場志向で課題解決力ある学生」、「未来志向でリーダー力ある学生」の育成を目的とする。

キーワード/Keyword(s)

地域振興、日常生活と移動、まちづくり、観光、課題解決、PBL、他大学混合

到達目標/Learning Objectives

- 地域振興の意義について理解している。
- 社会人との交流により地域課題に気付くことができる。
- 講義、現地視察、聞き取り、グループワーク、振り返り、発表などにより、地域を多角的な視点から理解し、課題解決について考察できる。
- 主体的に地域振興に関わっていく意欲や方法を獲得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】
「ヒトの移動と茨城県北地域のこれから」
<1日目（第1回～第5回）>
第1回：導入講義 | 「地域振興とは/人口減少・過疎化・高齢化の問題とヒトの移動について」
第2回：事前課題の発表、および受入れ先での情報収集の方法検討（事前質問の検討）
第3回：受入れ先①講義 | 「企業の考えるヒトの移動とこれから/生活を支える取組事例」
第4回：受入れ先①情報収集（関係者に対する聞き取り調査）
第5回：受入れ先①で得た情報を【選択型】グループワークによりグループ毎にまとめ、受入れ先①とともに論議
<2日目（第6回～第10回）>
第6回：1日目の振り返り（グループワークにより受入れ先①での情報をまとめる）
第7回：受入れ先②講義 | 「企業の考えるヒトの移動とこれから/生活を支える取組事例」
第8回：受入れ先②での現地見学と情報収集（関係者に対する聞き取り調査）
第9回：受入れ先②で得た情報を【オープンディベート型】グループワークによりグループ毎にまとめ、受入れ先②とともに論議
第10回：2日目の振り返り（グループワークにより受入れ先②での情報をまとめる）
<3日目（第11回～第15回）>
第11回：発表会準備（手分けして受入れ先の情報をまとめるとともに、補強データや図表等のコンテンツ作成）

第12回：プレゼン資料の作成と発表練習

第13回：グループによる発表会&討論

第14回：受入れ先による講評と講義：「改めて、企業の考える移動とこれから」

第15回：JAFによる講評と講義：「JAF茨城支部の考えるヒトの移動と茨城県北地域のこれから」

【授業外学修】

(1) 事前説明会において提示される事前課題について、参考図書やインターネットで各自情報を収集し、第1日目授業の際に提出できるように準備しておくこと。加えて受入れ先についての情報をネット等であらかじめ調べておくこと。

(2) 第1日目と2日目については、翌日のグループワークに向けて、受入れ先で収集した情報に対する個人の考えを取りまとめておくこと。その際、自身の考えを補強するためのデータについてもネット等で収集しておくこと。

(3) 個人で作成する事後レポートに向けて、第3日目終了後には第1～3日目すべての情報と、グループとして取りまとめた成果物について振り返り、それを基に自身の意見をレポートとしてまとめること。

【アクティブラーニング】

教員や受入れ先による講義の回（第1、3、7、14、15回）以外は全てグループ単位での演習・発表である。意見の取りまとめ部分では、それぞれ「選択型」（第5回）、「オープンダイバート型」（第9回）による意見集約の方法を演習する。

履修上の注意/Notes

○茨城大学生の受講は10～15名程度とします。このほか、他大学の学生の受講もあわせ、全体で20～25名程度とします。

○この授業は9月中の連続する3日間で開講します。詳細な日程は掲示等で周知しますが、3日間とも出席できることが条件となります。1日でも欠席が予定されている者の受講は認めませんので注意してください。

○この授業の事前説明会（オリエンテーション）を7月上旬に実施する予定です。受講希望者は事前説明会に出席してください。なお、履修登録の手続きは7月中を予定しています（いずれも掲示します）。

○学外での実地体験がありますが、3日間すべて大学に集合することを原則とします。場合によっては実地体験先までの交通費が受講生の個人負担となる場合があります。

○学生教育研究災害傷害保険等の保険加入が受講の条件です。詳細については事前説明会で確認してください。

○遅刻または早退3回で1回の欠席とみなします。30分以上の遅刻または早退は欠席とします。

○令和2年度は茨城大学工学部（日立キャンパス）を会場として実施します。

情報端末の活用

グループで発表資料を作成しての発表会を実施するため、3日目についてはノート型PCを持参すること（パワーポイント等のプレゼンテーション・ソフトが使用できることが望ましい）。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：自治体や企業の情報から地域の課題を認識し、課題に対しての現実的な解決策を提案できる。

A：自治体や企業の情報から地域の課題を認識し、現実性はないが解決案は提案できる。

B：解決策の提案までは難しいが、自治体や企業の情報から地域課題を認識することはできる。

C：地域の課題を認識することができない（誤認してしまう）。

D：そもそも情報を収集・集約することができない。

成績の評価方法/Grading

○事前課題 | 10%

○実地体験における積極性 | 10%

○ヒトの移動と県北地域振興の口頭発表（グループ） | 30%

○グループ発表時の質疑応答 | 10%

○事後レポート | 40%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書 特になし
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	茨城「地理・地名・地図」の謎：意外と知らない"茨城県"の歴史を読み解く！
著者名	小野寺淳監修
出版社	実業之日本社
出版年	2014
ISBN	978-4408455174
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

全国のロードサービスを担う日本自動車連盟（JAF）茨城支部が、提携先との連携を生かして授業の一部分で「地域振興」について、その具体的な手法や企画立案の視点について「ヒトの移動」という観点から講義する。
--

実践的教育から構成される授業科目

日本自動車連盟（JAF）茨城支部との連携によって「ヒトの移動と地域振興」をテーマに学外企業から演習の素材データを収集し、他大学も含めた他者との意見交換を通して、自身の意見をまとめ、相手に伝える手法を獲得する実践的教育を行う。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等
--------	-------